

報告書抄録

ふりがな	京都府遺跡調査報告集
書名	きょうとふいせきちょうさほうこくしゅう
副書名	
巻次	第175冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第175冊
編著者名	中川和哉・石井清司・竹原一彦・岡崎研一・福山博章・竹村亮仁
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番03 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2018年3月30日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
つきでいせき 月出遺跡	きょうとふきょうた んごしあみのちょう はまづめつきで 京都府京丹後市 網野町浜詰月出	26212	2192	35° 39' 17"	134° 57' 35"	20171017 ～ 20171222	500	道路建設
とうこうじあと 東光寺跡	きょうとふまいづる しあざきょうだこあ ざとうこうじ 京都府舞鶴市宇 京田小字東光寺	26202	226	35° 24' 50"	135° 19' 58"	20160526 ～ 20161102	1,600	道路建設
ふしみじょうあと 伏見城跡	きょうとふきょうと しふしみくむらかみ ちょう 京都府京都市伏 見区村上町	26109	1172	34° 55' 57"	135° 45' 27"	20160927 ～ 20161215	400	建物建設
きたおおつかこふん・ おおつかいせき 北大塚古墳・ 大塚遺跡	きょうとふきつづき ぐんいでちょういで おおつかほか 京都府綴喜郡井 手町井手大塚他	26343	8・ 36	34° 48' 27"	135° 48' 36"	20160721 ～ 20161028 20170105 ～ 20170131 20170405 ～ 20170530	1,357 1,848	建物建設
かなほりいせき 金堀遺跡	きょうとふそうらく ぐんせいにかちょうや まだかなほり 京都府相楽郡精 華町山田金堀	26366	23	34° 44' 00"	135° 46' 42"	20170420 ～ 20170518	120	道路建設
てんじんやまこふんぐ んだい2じ 天神山古墳群 第2次	きょうとふきづがわ しきづてんじんやま 京都府木津川市 木津天神山	26214	138	34° 43' 39"	135° 49' 32"	20160801 ～ 20160909	370	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
月出遺跡	遺物 散布地	不明	なし	なし	
東光寺遺跡	寺院跡 古墳	古墳～中世	横穴式石室・溝	須恵器・土師器・五輪塔	
伏見城跡	近世都市	江戸時代	溝・杭列	近世陶磁器・木製品・木簡	岡山藩 関連木簡の 出土
北大塚古墳	円墳	古墳時代後 期	古墳	須恵器・土師器・鉄器・金銅製品・瓦 器	
大塚遺跡	散布地			須恵器・土師器	
金堀遺跡	散布地				
天神山古墳群 1次	古墳群	奈良～近世	なし		

所収遺跡名	要 約
月出遺跡	古墳状の隆起に対して調査を実施したが、砂丘の起伏であることがわかった。また、平坦地のトレンチでは攪乱が深く及んでいることも判明した。
東光寺遺跡	地元の伝承で東光寺と呼ばれる寺院があったとされているが、人工的な雛壇状築盛やそれに伴う整地、暗渠を検出した。また、造成によって破壊された横穴石室を主体部とする円墳を検出した。
伏見城跡	豊臣秀吉によって築かれた伏見城であるが、今回の発掘調査では江戸中期の溝などを検出した。絵図などから岡山藩伏見屋敷のあった場所で、溝からは岡山藩に関係する人名が記載された荷札木簡が発見されている。また、隣接して存在した新宮藩の家紋入り漆椀なども発見されている。
北大塚古墳・大塚遺跡	北大塚古墳は従来、その位置や内容についてはほとんど分かっていなかったが、調査の結果、4基の古墳を検出した。これらの古墳の墳丘や石室はほとんど破壊されていたが、部分的に石材が遺存しており、横穴式石室墳であることが判明した。過去の報告では、北大塚古墳の周辺には複数の古墳が存在したとされているが、北大塚古墳は少なくとも4基の古墳で構成される群集墳であることが判明した。 大塚遺跡は散布地として知られており、過去の調査においては遺物の出土は見るものの、遺構は確認されていない。今回の小規模調査の結果、少量の遺物は出土するが、顕著な遺構は確認できなかった。
金堀遺跡	遺物散布地として周知されている遺跡であるが、今回の発掘調査地では山田川本流の洪水堆積層を確認するにとどまった。
天神山古墳群 1次	前方後円墳を含む古墳群として周知されていたが、調査の結果すべて自然地形であることが判明した。ただ、丘陵尾根部から奈良時代の遺物が発見されていることから、丘陵部で人間の活動があったことがわかる。